

教育・心理・社会分野（人文・社会科学科目群）

① 教育学関係科目の分類

教育学関係科目は、基礎的な内容を中心とする「基礎」としての「教育学Ⅰ・教育学Ⅱ」と、より応用的なテーマを取り上げる講義科目や、少人数で講読・研究発表などを行う基礎ゼミナール（「教育学基礎ゼミナール」と「ジェンダー論基礎ゼミナール」）からなる「各論」で構成されている。

「教育学Ⅰ」は、長い射程で教育そのものを論じながら、教育を見る眼を鍛えていくことをめざしており、「教育学Ⅱ」は、現代教育が抱えている国内・外の諸課題の把握・理解をめざすものである。「教育学Ⅰ・教育学Ⅱ」を担当している教員は、教育社会学・教育史・教育哲学を専攻しており、それぞれの学問の方法論にのっとって教育という事象を考察している。学問的な方法論の違いによって授業内容は大きく異なるので、詳細はシラバスで十分確認して欲しい。教育は学生のみなさんにとって身近なテーマであると思われるが、教育現象を学問の対象とすることの意義とそのためにならざる可欠な理論や方法への理解を深めることが、教育学のめざすところである。

「各論」の講義科目は、テーマがやや絞られており、専門性の高い授業もあるが、興味をもった科目については、内容をシラバスで確認した上で、積極的に受講することが望ましい。また、「基礎」や「各論」には日本人や外国人教員による英語講義も複数存在しているので、これらの受講にも果敢に挑戦して欲しい。

基礎ゼミナールは、教員と学生との間での双方向的なやりとりが可能な少人数で行うもので、受講者には主体的な授業参加が求められる。ゼミ形式で報告と討論を行い、そのことを通して、教育学やジェンダー論のより深い理解ならびに問題意識の醸成をめざしている。なお、基礎ゼミナールは後期に開講されているが、前期には教育学関係の ILAS セミナーとして「教育・社会・国家」「学力・学校・社会」「ジェンダー論」が開講されている。ゼミ形式の授業に興味がある人は、基礎ゼミナールだけでなく、これらの ILAS セミナーを履修することも推奨する。

② 心理学関係科目の分類

心理学関係科目は、心理学に関連する幅広いトピックの中から、心理学を学んだことのない学生にも興味・関心が持てるようなものを選び、入門的に概説する「基礎」科目、心理学の各分野別に体系的に基礎内容を解説していく講義と、演習形式でしか身に付けることのできない心理学的思考法・方法論等を学ぶ基礎ゼミナールからなる「各論」科目、および ILAS セミナーという「少人数」科目の3種類からなる。

「基礎」科目では、心理学という学問分野の幅広い問題領域（ないしは応用領域）に触れてもらうとともに、心理学の基本的な考え方を理解してもらうことを目標としている。心理学は、生物としてのヒトを対象とする心理学と、人生を生きる人間を対象とする心理学に大別することができるのだが、心理学Ⅰは前者に、心理学Ⅱは後者に、大まかに対応している。

「各論」科目は、講義と基礎ゼミナールからなっている。講義は、講義担当者が専門としている分野に関する基礎的な内容を扱う講義であり、その分野の基礎的な知見から最先端の研究動向までを見据え、その分野の一通りの体系に触れてもらうことを目標としている。基礎ゼミナールでは、演習形式で、心理学の各分野の研究法を学んだり、心理学的思考法を応用して関連する諸現象を分析したり、文献講読を通じて最先端の知見を学んだりすることができる。各担当者の開講する講義と基礎ゼミナールは基本的に対応しているが、それぞれ独立して履修することができるように配慮されている。

「少人数」科目は、ILAS セミナーであり、基礎ゼミナールと同様、少人数の演習形式で心理学の各分野の入門的内容を実践的に学ぶことができる。

心理学は、対象に関しても、方法論や研究スタンスに関しても、きわめて幅広い分野である。授業の詳細をシラバスで確認の上、ぜひ多様な「心理学」を履修してもらいたい。

精神分析学・精神病理学関係の科目のうち、精神分析学関係の科目は、歴史的展開を踏まえて精神分析の基礎的な考え方を学ぶ「精神分析学」と、精神分析の臨床の実際を理解する「精神分析Ⅰ・Ⅱ」、また、研究的接近のとは口となる「精神病理学・精神分析学講読演習」とから成る。

また、精神病理学関係の科目は、精神疾患からの社会復帰の課題を考える「行動病理学Ⅰ・Ⅱ」、研究的接近を講読によって試みる上記の「精神病理学・精神分析学講読演習」とから成る。このうち「行動病理学Ⅰ・Ⅱ」では、複数部局と非常勤講師の協力のもとに、共生の理念のもとで、現在の精神障害者福祉の在り方に触れる。

精神病理学と精神分析学は、独立した人間理解の体系を成すと同時に、臨床活動において密接な協力関係があり、それゆえ一つの科目群として履修してもらうこととなっている。特に、講読を通じてテーマを見つけてゆくための「精神病理学・精神分析学講読演習」は、単一の講読科目に総合されている。

③ 社会学関係科目の分類

社会学関係科目は、基礎的な内容を中心とする「社会学」（Ⅰ、Ⅱ）、より応用的なテーマを取り上げる「社会学各論」（Ⅰ、Ⅱ）、および少人数で講読・研究発表などを行う「ILAS セミナー：社会学」（Ⅰ、Ⅱ）、「社会学基礎ゼミナール」

(Ⅰ、Ⅱ)で構成されている(「ILAS セミナー：社会学」は少人数教育科目群に属する)。

「社会学」は、社会学理論の基本的な概念と学説を紹介する「社会学Ⅰ」(前期開講、計4コマ)と、それらの基本概念・学説に基づく社会学の経験的研究を幅広く紹介する「社会学Ⅱ」(後期開講、計4コマ)から成る。いずれも、大学で初めて学ぶ社会学という学問の基本的な視点や発想の意義、またそれによって現代社会の現実をどのように「常識」を超えた観点から捉えることができるかということ、理系学生も含めた初学者に体得してもらうことを目標としており、(高校の公民科などの)特別な予備知識は必要としない。

「社会学各論」は、「社会学各論Ⅰ」「社会学各論Ⅱ」(各1コマ)が、原則として後期に開講される。これらは、「社会学Ⅰ」の応用として、「社会学Ⅱ」よりも領域を限定した)社会学の専門的研究を、やや深く掘り下げて紹介する。具体的な内容は年度によって変化するので、内容および履修条件についてはシラバスで確認してほしい。

少人数科目は、「ILAS セミナー：社会学Ⅰ」「ILAS セミナー：社会学Ⅱ」(各1コマ)が前期に、「社会学基礎ゼミナールⅠ」「社会学基礎ゼミナールⅡ」(各1コマ)が後期に、それぞれ開講される。いずれも少人数でテキストの講読や研究発表を行うゼミ形式の授業であり、受講者には主体的な授業参加が求められる。前期に「ILAS セミナー：社会学」

(ⅠまたはⅡ)を履修した学生は、後期に「社会学基礎ゼミナール」(ⅠまたはⅡ)を続けて履修することで、より学修を深められるように計画しているので、もし可能であれば前後期連続した履修を推奨する。扱うテキスト等は年度によって変化するので、内容についてはシラバスで確認してほしい。ただし、いずれも社会学の初学者を対象としており、特別な予備知識を必要としない点は、「社会学」と同様である。